

平成28年度NHK予算案

[議事録 2/4]

- ・NHKと視聴者との接触率の変化
- 2015年11月全国個人視聴率結果に対する見解
- 四半期業務報告における指標数値に対する見解

○吉川沙織君

私、初めてNHKの予算案の審議の質疑に立たせていただきましたのは、今から8年前の平成20年度予算案で、福地会長のときでございました。私、前職は会社員で営業をしておりました。視聴者との接点を大事に



すべき、こういう観点で質問をさせていただきました。

今、報道の現場、これはNHKに限らず民放においても萎縮はしていないかもしれません。ただ、いろんな動きがありました。例えば政権与党による放送局の事情聴取、それから様々な問題がありました。現場ではどうなっているか、私は放送現場の出身ではありません

で分かりません。ただ、実際は萎縮していないとしても、視聴者がもしそうでないと感じたならばテレビ報道は信頼を失い、例えばこれまで熱心に寄り添っていた視聴者が離れていくてしまうのではないか、こういう疑問を持っています。

そこで、NHKと視聴者の接点という観点から現在のNHKを見てみたいと思います。

昨年12月15日のNHKの理事会で、「2015年11月全国個人視聴率調査の結果について」が報告されています。昨年11月9日から15日までの一週間でテレビ視聴時間等の調査を行ったものであります。民放は横ばいです。NHKは視聴率、視聴時間下がっています。更に言えば、NHKを比較的よく見ているとされている50代以上でNHKの視聴時間が短くなっていますが、会長、いかが御感想お持ちでしょう。

○参考人(畠井勝人君)

NHKの場合は、いろんな番組で特徴がございます。我々は、やはり報道番組、これが一つ、それからドラマ、これが一つ。我々が極めて弱いのは娯楽番組でございます。

そういう意味におきまして、我々としては、もう少しバランスの取れた放送をしなきやいかぬと思いつつも、やはり我々に課されている課題は、やっぱり事実に基づいて正しい報道をしていくということが一番ではないかというふうに思っている次第でございます。

○吉川沙織君

今会長は、報道、ドラマ、それから、娯楽番組が弱い、報道とドラマは強いとおっしゃいました。

同じ今申し上げた調査結果によれば、「NHK ニュース 7」も、「ニュースウォッチ 9」の夜間ニュースは視聴率が物すごく落ちてしまっています。若年層においては元々テレビ離れ、従来からずっとと言われていましたので、若年層が低いのは前からの傾向です。今申し上げた調査結果、NHK を比較的よく見る 50 代以上について、特に夜間のニュースである「NHK ニュース 7」において、昨年から 5% 以上、会長が就任された以降、男性 70 歳以上、女性 70 歳以上で物すごく数値が下がっていますが、御感想をお伺いします。



○参考人(粂井勝人君)

申し訳ないんですけど、私の認識と大分違うと思います。

「ニュース 7」については、私、大体毎日視聴率見ていますが、15% 以上、「ニュース 7」についてはあると思います。これは、15% というのは報道番組の中ではかなり高い数字でございます。おっしゃるとおり、「ウォッチ 9」は 10% 前後でございますから、私としては、この時間帯で 10% というのはちょっと低いというふうに思っております。しかし、7 はそうではないです。

○吉川沙織君

今申し上げた、NHK 自身が調査、文研が調査しているものを見ると、「NHK ニュース 7」、高いとおっしゃいましたが、全体で見たら、2014 年 11.4%、2015 年 10.1%、下がっています。「ニュースウォッチ 9」に関しても物すごい下がっています。

ですから、会長、これはデータをちゃんと取って調べたものです。対象者も全国的に明確にしています。年齢層も幅広く取っています。その数値が下がっている。もう一度お伺いできますか。

○参考人(粂井勝人君)

ここで今、視聴率の話を議論するつもりはありませんけれども、私、毎日視聴率を見ているんですよ。それでも「ニュース 7」はきっちりと 15% ございます。そういう意味において、我々が相当力を入れている「ニュース

7」、この時間帯でございますから、これについては 10% ということはないと思います。

○吉川沙織君

今申し上げたのは、2015 年 11 月全国個人視聴率調査、対象は一週間、全国 7 歳以上の男女 3,600 人、有効数 66.9%、しっかりデータを取って出された客観的な数値です。会長が大好きな客観的な調査、この結果で「ニュース 7」も「ニュース 9」も落ちてしまっている。

別の観点から、では伺いたいと思います。

経営委員会では四半期ごとに四半期業務報告というものがなされています。NHK 三か年の基本方針と、



その達成状況を測る世論調査結果が掲載されています。

昨年 10 月 27 日、第 1247 回経営委員会で報告された四半期業務報告によれば、これ、先ほど会長も答弁で 14 指標についておっしゃっていました、この 14 指標の中の「正確・迅速な情報提供」における期待度と実現度の差、この期待度と実現度は、期待が高ければ、この実現度が合っていれば、

それは達成できているというふうに読めるものですが、この「正確・迅速な情報提供」における期待度と実現度の差が残念ながら大きくなってしまっています。平成 27 年 1 月調査まではこの期待度と実現度の差は一桁台でとどまっていたんですが、去年の 1 月調査では初めて二桁に乗ってしまって 10.3%。最新の報告では、これが更に開いて 12.4%となってしまっています。

この四半期業務報告は経営委員会でも報告をされています。経営委員会でも報告されて議論となっているのは議事録にしっかり残っていますが、先ほどの調査結果と併せて、経営委員長、御感想をお伺いします。

○参考人(浜田健一郎君)

受信料を財源とする公共放送として、国民・視聴者の皆様からいただく御意見や御要望は大変貴重なものだと認識しております。

委員御指摘のように、放送法に基づき、視聴者の皆様から寄せられた声は執行部から経営委員会に四半期ごとに報告をされております。報告の中に経営関連の意見、要望への対応についての項目を新たに設ける



よう経営委員会から求め、実現するなど、視聴者の声を真摯に聞く姿勢を大切にしております。

また、経営委員会では、全国各地で視聴者のみなさまと語る会を開催し、いただきました御意見や御要望については執行部との情報の共有化を図るとともに、経営委員会の活動に反映させるよう努めております。

○吉川沙織君

数値が良くなっているものもちろん、14つの指標がありますので、あります。ただ、「正確・迅速な情報提供」で期待度と実現度の差がどんどん開いてしまっているというのはゆゆしき事態ですので、経営委員長も、経営委員長として、経営委員会としてしっかり職務執行、監督していただければと思います。

この差が大きくなっていたり、それから視聴率が残念ながら下がっていたりするのは、もしかしたら、先ほど来議論になっております、NHK で不祥事が残念ながら多く起こっているということも関係しているかもしれません。

続きの議事録(3/4)は、[こちら](#)です。